

だんだんと原山小が戻ってきました

校長 高野 英俊

梅雨の時期になると本校のフェンス沿いにあるアジサイ花が美しく咲きます。多くの青紫や赤紫の花が目を喜ばせてくれます。先月からの学校生活再開も1か月が過ぎ、少しずつではありますが、だんだんと原山小の日常が戻ってきたように感じます。

久々に子どもたちと教職員が揃った6月15日には、新型コロナウイルス感染防止の最前線で医療に従事している方々への感謝を拍手で伝える活動「Clap for Carers」を行いました。活動前に各担任から子どもたちへ活動の主旨を説明して全校一斉に拍手をしました。響いてくる拍手の音は、とても温かく、感謝の気持ちと共にこれまで頑張ってきた子どもたち互いへの励まし、そしてこれからも頑張ろうという決意の響きでもあるように感じました。心のこもった拍手の響きに私たち教職員も大いに励まされました。

新しい生活様式を踏まえての学校生活や学習は、以前と全く同じというわけにはいきません。手洗いやマスク着用はもちろんのこと、教室内でも人との距離をとって行動するなど、慣れるまではとまどうことが多いと思います。そのような中でも、少しずつ学習や活動が動き始めています。例えば、体育の授業は、体育着に着替えずの学習を始めました。(更衣の際に周りとは接触することを避けてのことです。)準備運動の号令や返事など子どもたちの元気な声が聞こえるようになって、思わず顔がほころびます。清掃活動については、子どもたちは自分の座席や机を整理整頓するだけが基本です。教室の床等は各担任が毎日清掃し、共有部は消毒しています。汚れやすい校内の全階段や廊下の一部は高学年の子どもたちが分担して清掃してくれています。(ほうきやちり取りは個人指定で使用しています。)
「久しぶりにほうきを使いました。」という子がいる一方、「家の手伝いを前よりするようになって、ほうきを使うのが得意になりました。」という子もいました。これまでと違う学校生活でも、原山小の子どもたちはとても健気に頑張ってくれています。

子どもたちは新しい学年学級にだんだんと慣れてきています。また学校生活のリズムも徐々に取り戻しつつあります。例年であれば夏休みがもうすぐという時期ですが、今年度は7月31日まで1学期が続きます。新しい生活様式での生活・学習を確実に進めるべく、教職員全員の力を合わせて、一人一人をよく見て指導をしてまいります。保護者、地域の皆様にはこれまでと変わらぬ温かい御理解と御協力をどうぞよろしく願いいたします。